

TOSHIBA 東芝ルームエアコン据付説明書

室内ユニット
RAS-225GR RAS-225GRS
RAS-255GR RAS-255GRS
RAS-285GR RAS-285GRS

室外ユニット
RAS-225GAR
RAS-255GAR
RAS-285GAR

安全上のご注意

据付工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上据え付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は右のようになっています。

- 警告** 「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があること」を示します。
- 注意** 「誤った取り扱いをすると人が傷害(1)を負う可能性、または物的損害(2)のみが発生する可能性があること」を示します。
- 1: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
 - 2: 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害をさします。

警告

据え付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼することで行ってください。水漏れや感電・火災の原因になります。

据付工事は、R410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に施工してください。HFC系R410A冷媒は、従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかつた、据え付けに不備があること、ケガの原因になります。

また、水漏れや感電・火災の原因になります。

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に施工してください。耐重量不足や取り付けが不完全な場合は、ユニットの落下により、ケガの原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格がある方が電気設備に関する技術基準、内線規程、および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用すること また、電圧は製品の定格電圧と合わせる電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。

室内外ユニットの接続配線はFケーブルを使用し、途中接続、ヨリ線や半線どうしの接続およびヨリ線の先端に半線を接続することは絶対に行わないでください。

接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように成形し、カバーを確実に取り付けるカバーの取り付けが不完全な場合は、端子部の発熱・火災や感電の原因になります。

据付工事は、必ず付属部品または指定の部品を使用することで行ってください。ユニットの落下、水漏れ、火災、感電の原因になります。

エアコンの据え付けや移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気や水分が混入しないように、空気などが混入すると冷凍サイクル内に異常高圧となり、破壊によるケガなどの原因になります。

作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をする冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

設置工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

アースを行うアース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所には設置しない万が一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になります。

据付工事は、この据付説明書に従って行う据付に不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。電源プラグに差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込むホコリの付着、詰まり、がたつきがないこと、感電、火災の原因になります。

コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける冷媒配管が取り付かれておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止し、圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

注意

設置場所によっては漏電ブレーカーの取り付けが必要漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

据付工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管することで行ってください。

不確実な場合は屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

フレアナットはトルクレンチで指定の方法で締め付けるフレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。

電源コードの加工、途中接続、タコ足配線はしない接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、火災、感電の原因になります。

室内外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらないケガの原因になります。

据え付け工事後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

据付作業では、手袋()を着用する着用しない部品などにより、ケガの原因になります。(軍手などの厚手の手袋)

冷媒配管について

- 新冷媒(R410A)用配管キットを使用しない場合
1. 従来の配管キットを使用する場合
2. 一般の銅管を使用する場合
銅管はJIS H 3300「銅および銅合金無縫管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。
3. フレアナットおよびフレア加工
フレアナットはエアコン本体付属のものに交換してください。

据付新情報

エアパージについて
『地球環境保護の観点からエアパージは真空ポンプ方式でお願いします。』
室内ユニット
この据付説明書には「据付用の型紙」が付いていません。据付板を据え付けるときは、据付板と室内ユニットの位置関係を十分確認してください。
関連する寸法は『1穴あけ・据付板固定』に記載しています。ガス側配管に補強スプリングが入っていません。
冷媒の補充
接続配管長が10m以上の場合、冷媒補充が必要です。延長1m当たり20g補充してください。
ドレンホースはねじ固定方式になりました。
ドレンホースを付け替えるときは、最初に本体と固定していたねじを使用してください。ドレンホースのねじは「4.配管・ドレンホースの成形」をご覧ください。

同梱付属部品

品番	付属部品	個数
	据付板	1
	据付板取付ねじ 4×25φ	6
	ドレンニップル	1
	ワイヤレスリモコン	1
	リモコンホルダー取付ねじ 3.1×16φ	2
	電池 単4	2
	リモコンホルダー	1

印は室外ユニットと同梱

付属品	個数
据付説明書	1
取扱説明書	1
保証書	1

リモコン設置上のご留意

リモコンを操作して、本体が確実に受信する位置であることを確認してから取り付けてください。直射日光の当たるところやストーブなどの近くに置かないでください。

据付部材(別売)

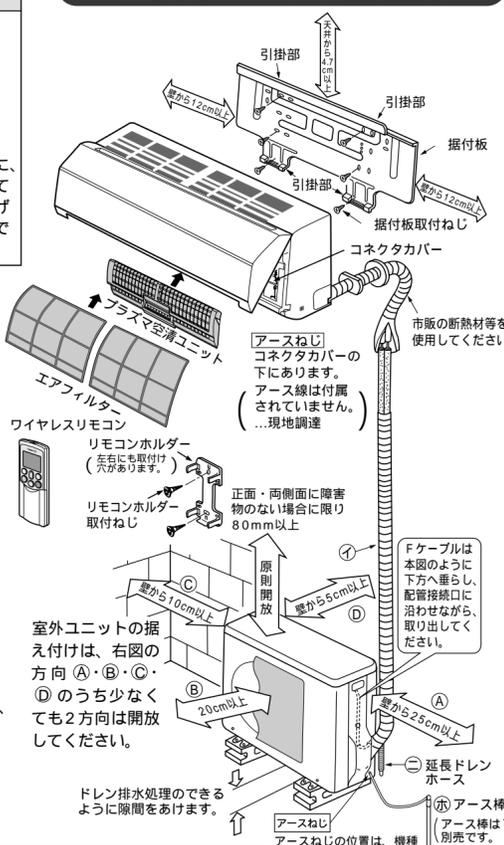
品番	部品名	個数	備考
①	フレア配管セット 接続配管 液側(外径): 6.35mm ガス側(外径): 9.52mm	各1	接続配線(3芯×1本)配管断熱材、パテ、テープ類が同梱
②	据付機上	2	形名 RB-101K1(5セット梱包)
③	据付機下	2	形名 RB-102K1(1セット梱包)
④	延長ドレンホース	1	形名 RB-821SW(5m)
⑤	アース棒	1	形名 RB-Y11
⑥	ドレンエアークットバルブ	1	形名 RB-CV11

左下・左・左後配管の据付について



室内ユニットと壁の間に、こぶし大のものを入れて室内ユニットを持ち上げますと配管作業が楽にできます。

室内外ユニット据付図



室内ユニットの据え付けは、右図の方向(A)・(B)・(C)・(D)のうち少なくとも2方向は開放してください。

室外ユニットの据え付けは、右図の方向(A)・(B)・(C)・(D)のうち少なくとも2方向は開放してください。

接続配管の断熱
接続配管は、2本を分離して1本毎に断熱します。
6t耐熱発泡ポリエチレン
(天井内に配管を通す場合は10t以上の耐熱発泡ポリエチレンを使用してください。)

HA機器の接続について

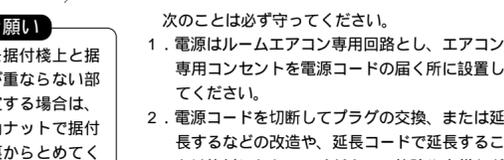
室内ユニットにHA対応端子がついています。HA機器を使用する場合は、別売の「アダプタ」のコネクタをHA端子(4P)に差し込みます。(HA端子の位置は下記参照)

詳しくは「アダプタ」説明書をお読みください。



室外ユニットの具体的据付例

室外ユニット周囲が開放された据え付け場所が選べず、やむを得ず吸込口及び吹出口に壁などの障害物のある場所に据え付ける場合は下記に従ってください。ただし、その場合には冷暖房能力及び入力力は10%程度悪化する場合があります。



1 穴あけ・据付板固定

穴あけ

配管を後取りする場合

据付板の(→)表示を利用し配管穴位置を決め、配管穴(65mm)を屋外向かって下り勾配になるようにあけます。(配管穴は配管収納部の結露防止のため、パテ等で完全にシールしてください。)

お願い
メタルワイヤス、ワイヤスまたは金属板を使用している壁を貫通させるときは必ず下記の部品を使用してください。
幹旋先: 東芝テクノネットワーク(株)
(1)部品名: ウォールキャップ
型名: UWC-60N
(2)部品名: 貫通スリーブ
型名: FP-60N

据付板固定

据付板を壁に直付けする場合

1. 据付板は最上部と下部の引っ掛け部付近を必ずねじ止めてください。
2. 室内外ユニット据付図のように据付板の回りは間隔をあけ、壁内の構造材をさがして水平に取り付けます。(4カ所以上をねじで固定してください。)
3. 据付板の水平は糸に重りを垂らしてゲージに合わせて確認します。水準器を使用する場合は据付板の上側に水準器をのせて水平を確認します。水準器をのせる範囲は図のように200mm以下にしてください。
4. 埋込ボルトを利用するときは、図のように埋込ボルト用穴を利用して固定します。(埋込ボルトの出張り寸法は15mm以下にしてください。)

2 電気工事

回り縁と鴨居を利用する場合

据付板(別売品)をお使いください。

1. 据付機上・下を回り縁下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付機に同梱のねじ(4×10φ)で据付板を仮止めします。
2. 仮組みした据付板と据付機をねじ(4×25φ)で回り縁と鴨居へ固定します。
3. 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかりと締め付けます。
4. 据付板の最上部と下部の引っ掛け部付近は必ずねじ止めてください。

据付板A部詳細
据付板B部詳細

お願い

据付板を据付機上と据付機下が重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付機下の裏からとめてください。(六角ナットはRB-101K1, RB-102K1に同梱しています) 据付機は上と下を使用し、据付機取付ピッチ(288mm)で取り付けてください。このように取り付けない場合は、ビビリ音が発生することがあります。

次のことは必ず守ってください。

1. 電源はルームエアコン専用回路とし、エアコン専用コンセントを電源コードの届く所に設置してください。
2. 電源コードを切断してプラグの交換、または延長するなどの改造や、延長コードで延長することは絶対に行わないでください。故障や火災などの原因になります。
3. 電源コードをビニールテープなどで巻いて収納しないでください。

電源	(50/60Hz)		電源コード	最大電流
	ヒューズ及びブレーカ定格	コンセント規格・形状		
単相 100V	15A	15A (II)	2m	14.8A

配線容量は十分余裕のあるように配線工事を行ってください。また、機種と据付場所によっては感電防止のため、漏電遮断器の取り付けが法規上必要な場合があります。

3 接続配線の接続

配線のしかた

1. 吸込グリルをはずします。吸込グリルを止まる位置まで開き、中央部の支持アームを左側に押しながら軸をはずし、吸込グリルを手前にはずします。
2. コネクタカバーをはずします。固定ねじをはずしてから左側の爪をはずします。
3. Fケーブルをセット背面より(A)部の穴を通して、前面に約15cm出します。
4. Fケーブルをコネクタに挿入します。
5. コネクタカバー左側の爪を引っ掛け、ねじで固定します。
6. コネクタカバーが容易に取り付くように、Fケーブルの余りは室内機と壁の間に収納します。(サービス時、セット背面側でFケーブルに余裕があるとFケーブルの引き抜きが容易になります。)
7. 吸込グリルを前面パネルに取り付けます。吸込グリルを前面パネル両端の軸溝に合わせ、止まる位置まで押し込みます。吸込グリル中央上部の支持アームの軸が前面パネルに入っていることを確認してください。

コネクタカバーはFケーブルの固定を兼用していますので必ず取り付けてください。

コネクタのFケーブルの差し込み

Fケーブルはコネクタの奥までしっかり挿入してください。挿入は、のぞき穴から芯線が見えるまで差し込んでください。(挿入が不完全な場合、接触不良となり発熱します。)

Fケーブルの抜き方

コネクタの突起を押して、Fケーブルを引き抜きます。

Fケーブルの固定

コネクタカバー左側の爪をサブベースに引っ掛け、固定ねじで確実に固定します。その際、Fケーブルの外被覆を必ず押さえ込むこと。被覆部を直接押さえると被覆に傷が付き、芯線が露出する恐れがあります。

4 配管・ドレンホースの成形

露付き故障の原因となりますので、接続配管は2本共確実に断熱します。(断熱材は発泡ポリエチレンを使用)

ドレンキャップ引き抜き方法

ドレンキャップをラジオペンチで挟み、引き抜きます。

ドレンホースの取り付け

ドレンホースの接続部分が断熱材に当たるまで確実に差し込み、最初に本体と固定していたねじで固定します。

最初に本体と固定していたねじ以外を使用すると、水漏れを起こす原因となります。

ドレンホースの取りはずし

ドレンホースはねじ固定方式となっていますので、ねじをはずしてからドレンホースを取りはずします。

ドレンキャップ差し込み方法

4mmの六角レンチ(室外ユニットエアパージ用)を中央穴に差し込み、ドレンキャップがドレン口先端に当たるまで当たるまで確実に差し込みます。

水漏れの恐れがありますので、確実に挿入してください。

据え付けてから接続

据え付けてから据え付け

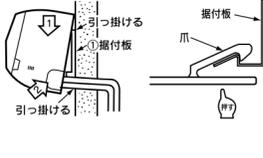
ポリシンを使用する場合は削り粉が入らないよう必ずフレア加工を行った後に挿入してください。ポリシンのコード番号 接続配管が9.52mm(外径)の場合: 90000328

4 配管・ドレンホースの成形 (つづき)

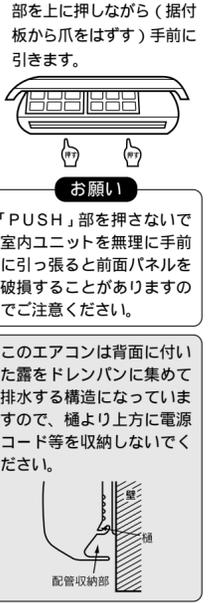
お願い
配管を曲げる場合はポリシン・スプリングベンダーなどを使い、配管をつぶさないように注意してください。
補助配管(2本) Fケーブルをふくらみのないよう化粧テープでしっかり巻いてください。ただし、左取り、左下取り、および左後取り配管の場合は、補助配管(2本)だけを化粧テープで巻いてください。
配管は、室内ユニット背面より出っ張らないこと、補助配管と接続配管の接続部分は断熱材が重ならないよう接続配管側の断熱材を切り取り接続部分をビニールテープなどでシールする。
補助配管のスリットは確実にシールすること。配管を曲げるときは、配管をつぶさないように注意してください。
補助配管の接続口に取り付けてあるナイロンキャップは再使用しないでください。

5 室内ユニットの取付

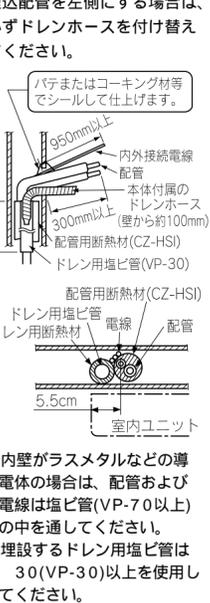
1. 配管を壁穴に通し、据付板上部の引掛部に室内ユニットを引っ掛け、なお、配管貫通穴は配管収納部の結露防止のためパテ等で完全にシールしてください。
2. 室内ユニットを左右に動かして引掛爪がはめ込まれていることを確かめます。
3. 室内ユニット下部を壁側に押しつけ下側の爪に引っ掛けます。室内ユニット下側を事前に引き、爪が引っ掛かっていることを確認してください。



埋込配管仕様



ドレン排水について



6 室外ユニットの設置

室外ユニットの設置は「据付場所の選定」をお読みください。

降雪・寒冷地域の据付について

1. ドレン排水は、付属のドレンニップルは使用しないで「タレ流し」にしてください。
2. 積雪から保護するため、「架台」に据え付け、防雪フード・防雪板を取付けてください。

積雪ラインより50cm以上に据え付けてください。

別売「室外ユニット高置台」使用例(型名:RB-D401K1)

室外ユニット埋込ボルト取付寸法及びドレン口位置 [単位: mm]

強風の当たる可能性のある場所では室外ユニットを固定してください。埋込ボルトは8または10を使用してください。

7 ドレン排水

室外ユニット底面の穴に付属のドレンニップルと、別売の「延長ドレンホース」または、市販の「ドレンホース」(内径16mm)を取り付け、排水処理を施します。室外ユニットは水平であることを確認し、接続のドレンホースは「たるみ」がないよう下り配管にします。

別売「ドレンニップル」
延長ドレンホース(別売)(型名:RB-821SW)又は市販の「ドレンホース」

お願い
市販の「ビニールホース」はつぶれて排水できない恐れがあるので使用しないでください。

8 冷媒配管の接続

接続配管

液側(外径)	ガス側(外径)
6.35mm	9.52mm

フレア加工

パイプカッターで配管を切断します。バリは必ず取ってください。(ガス漏れの原因となります)フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。R410A用のフレア加工寸法は、従来のR22用とは異なります。R410A用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば使用できます。

フレア加工時の銅管出し代: B(単位: mm)

リジッド(クラッチ式)の場合

銅管外径	R410A用ツール使用時	R22	従来ツール使用時	R410A	R22
6.35	0~0.5 (同左)	1.0~1.5	0.5~1.0	0.5~1.0	0.5~1.0
9.52	0~0.5 (同左)	1.0~1.5	0.5~1.0	0.5~1.0	0.5~1.0

インベリアル(ウイングナット式)の場合

銅管外径	R410A	R22
6.35	1.5~2.0	1.0~1.5
9.52	1.5~2.0	1.0~1.5

フレア加工寸法: A (単位: mm)

銅管外径	A	R410A用	R22用
6.35	9.1	9.0	9.0
9.52	13.2	13.0	13.0

従来のフレアツールを使ってR410A用のフレア加工をする場合は、R22のときより約0.5mm多めに仕上げば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

9 エアパーシ

エアパーシ(接続配管内の空気)は、地球環境保護の観点から「真空ポンプ方式」でお願いします。地球環境保護のため、フロンガスを大気中に放出しないでください。真空ポンプ方式にてセット内の残留空気(窒素等)を除去してください。空気が残留すると能力低下などをまねくことがあります。

左図の通りチャージホースを接続するマニホールドバルブは全開(4)

パルプコア(虫ピン)押しの突起が出ている側の接続口をセットのチャージ口に取り付ける

ハンドルLo全開

真空ポンプを運転し真空引きする(1)

ガス側バックバルブのフレアナットを少しゆるめエアが入っていくことを確認する。(2)

再度フレアナットを締める

真空引きを10分以上(3)行い、連成計が-101kPa(-76cmHg)になっていることを確認する(1)

- 1 真空ポンプは必ず逆流防止機構付きを使用してください。また、真空ポンプ・真空ポンプアダプターおよびゲージマニホールドは、ご使用前に各ツールに付属の説明書をお読みの上、正しくお使いください。真空ポンプは、油がオイルゲージの指定線まで入っていることを確認してください。
- 2 エアが入っていないときは、チャージホースのバルブコア押し突起が出ている側が、チャージ口にしっかり接続されているか再確認してください。チャージ口の突起が押されているか確認してください。
- 3 新品の接続配管で、270/分以上の能力の真空ポンプを使用する場合には限ります。上記以外の場合は、15分以上真空引きをしてください。
- 4 チャージ口とチャージホースの間にコントロールバルブまたはチャージバルブを接続し、真空引きを行うと冷媒の放出を防止できます。ご使用前にツールの説明書をお読みの上、正しくお使いください。

10 ガス漏れ検査

R410Aには、HFC冷媒(R410A,R134aなど)専用で製作されたリークデテクタを使用してください。

従来のHCFC冷媒(R22など)用リークデテクタは、HFC冷媒に対する感度が約1/40に低下するため使用できません。

R410AはR22に対して圧力が約1.6倍となります。据え付け工事が確実に実施されないと、運転中の圧力上昇時にガスリークの原因となりますので、配管接続部のリークテストを確実に実施してください。

配管長が10mを超えた場合は、冷媒の追加補充が必要です。

冷媒の補充量	10mを超えた長さに応じて
	1mあたり20g補充
	最大15mまで

冷媒の補充には、電子はかりなどを使用して、ポンベの液相から徐々に補充してください。冷媒ポンプがサイホン管なしの場合は、ポンペを逆にして補充してください。

お願い
*R410Aは混合冷媒のため、ガスで封入します。補充冷媒の組成が変わり機器の特性が変化します。そのために必ず、液冷媒で補充してください。

バックバルブ操作上の注意

弁棒は、ストッパーに当たるまであけてください。それ以上に力を加える必要はありません。弁棒キャップは、トルクレンチでしっかり締め付けてください。弁棒キャップ締め付けトルク

弁棒キャップ	二面幅	締め付けトルク
チャージ口	H17	14~18N・m(1.4~1.8kgf・m)
	H19	14~18N・m(1.4~1.8kgf・m)
	H22	32~43N・m(3.2~4.3kgf・m)
	H15	9N・m(0.9kgf・m)

11 接続配線の接続

1. 室外ユニットの配線蓋を取りはずします。

2. Fケーブルの先端をコネクタの奥までしっかり差し込みます。(皮ムキ長さ19mm 3 接続配線の接続)参照)

3. Fケーブルの外被覆部を配線蓋でしっかり固定します。

4. Fケーブルは、バルブカバーが浮き上がらないように側板に沿わせてください。

5. 未使用のコードはビニールテープ等で絶縁処理してください。

室外ユニットコネクタ

室内ユニットコネクタ

Fケーブル

配管接続口のカバーについて

市販の配管化粧カバーを配管接続口に取り付けますと、きれいな仕上がりとなりますので、ご利用ください。

切断先: 東芝テクノネットワーク(株) 部品名: フリーコーナー 型番: SF-66-500 SF-77-500 SF-66-1000S SF-77-1000

ドレンホースの取り出しのため、上図のように配管化粧カバーの片側を、ハサミ等で切り欠きます。

12 アース工事

アース工事は「電気設備に関する技術基準」に従って実施してください。万一の感電事故を防止するほかに、このエアコンは室外ユニットに周波数変換装置(インバーター)を内蔵していますので、高周波による室外ユニット表面などへの帯電やノイズを吸収するためにアースが必要です。アースがない場合、帯電した室外ユニット表面に手を触れると電気を感ずることがあります。

接地の基準 接地の基準はエアコンの電源電圧および設置場所により異なります。下表により接地工事を行ってください。

電源の条件	エアコンの種類	エアコン設置場所	水気のある場所に設置する場合	湿気のある場所に設置する場合	乾燥した場所に設置する場合
対地電圧が150V以下の場合	100Vの機種(含単相3線式200Vの機種)		D種接地工事が必要です。(注④)	D種接地工事が必要です。(注④)	D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。(注⑤)
対地電圧が150Vを超える場合	3相200Vの機種(含単相2線式200Vの機種)		漏電しゃ断器を取り付けさらにD種接地工事が必要です。(注④)		

室外または室内ユニットのどちらか一方のアース端子より、接地工事を行ってください。

重要事項

次のようなものにアース線を接続すると危険ですので、絶対に行わないでください。

水道管・ガス管・避雷針や電話のアース線

D種接地工事について(注④)

接地工事は電気工事の方が行ってください。接地抵抗は100以下であることを確認してください。ただし漏電しゃ断器を取り付けた場合は500以下であることを確認してください。乾燥した場所に設置する場合(注⑤)

接地抵抗は100以下になるようにしてください。最悪でも250以下であることを確認してください。

お願い

アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。漏電ブレーカが働く場合は衝撃波不動作形の漏電ブレーカに交換してください。漏電警報器が働く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

13 点検・試運転

1. 電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認します。

2. 自動運転ボタンを10秒以上押しすと「ピッ」と音が鳴り、強制冷房運転になります。約3分後に運転を開始します。運転を始めないときは、配線を再確認してください。

3. 試運転を停止するときは、自動運転ボタンをもう一度押します。

4. リモコンのボタンを押して、リモコンでも運転することを確認します。

空清りセット クリーニング お手入れ

自動運転 タイマー 空清り 運転

自動運転ボタン

3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。これは本体保護のため故障ではありません。

ルームエアコン 据付工事 点検チェック項目

- チェック欄**
- 据付場所の強度
 - 配管接続部の締め付け、ガス漏れ
 - 接続配線の結線
 - 配管の断熱
 - ドレン排水
 - アース線の接続
 - 試運転、取扱説明